

はじめまして。

私は済州教区から来たイムマヌエル ホ チャンランといいます。今月、京都教区と済州教区の姉妹教区の交流月間をむかえて、ここ京都に参りました。すでに京都教区と済州教区が姉妹教区の結縁を結んで7年目になりました。今後も姉妹教区として両教区がイエス様が教えて下さった愛の掟によって、お互いに高めあって、愛して過ごせることを願って、神様の恵みを求めます。

今日は、年間第11主日です。今日の福音では、罪深い女が涙を流して髪の毛でイエス様の足をぬぐってあげます。そして、イエス様はその女の罪を赦します。私たちもこの女のように、自分の罪を全て神様の前で悔い改めましょう。神様は罪人たちの改心をその何よりも喜んで、私たちの真っ赤な罪でも雪のように白くしてくださる方であるからです。

今日の第1朗読を見れば、神様はナタン予言者を通し、ダビデがウリヤを殺して彼の妻を自分の妻としたことを叱責します。ここにダビデは「私は主に罪を犯した。」と言いながら、自分の罪を率直に告白し、神様に許しを求めます。それで、神様はその人を許して下さいます。

小説や映画を見れば、平面的な人物と立体的な人物の類型があります。平面的な人物とは、例えば、小説「白雪姫」のように初めから最後まで善良な存在で描写される白雪姫や、ひたすら悪人で描写される継母のような人物を示します。その反面、立体的な人物といえ、悪人から善良な人へ変わったり、あるいは善良な人から悪人へ変わるように、何か変化する人物です。例えば、チャールズ・ディケンズの小説「クリスマス キャロル」に出てくる、スクリュージおじいさんはケチの人でしたが、幽霊を通して、自分の過去、現在、未来の姿を見て、寛容な人へ変わります。この時、スクリュージという人物は平面的な人物でなく、立体的な人物といえます。

今日の福音には、大きく、三人が出ています。ファリサイ派の人、イエス様、そして罪深い女です。ファリサイ派の人は、罪人である女を行いが悪い女として完全に固定してしまいます。彼の目には罪深いその女が平面的な人物です。変化の可能性を排除するのです。その反面、イエス様にとって、その女は立体的な人物です。行いが悪いという事実固定されず、その女の変化に注目します。その女に対し一面的に考えるのではなく、複合的な面を見ることです。

私たちは周辺の人々をどのように見えていますか? 「あの人は、あーいう人で、この人は、こーいう人だ。」と決め付けてしまうのではありませんか? しかし、一人の人間をそのように決めつけることは危険なことに違いありません。誰でも変わることができます。お互いがイエス様に似た姿に変化できるように助け合わなければなりません。アーメン。